

名古屋 WS 報告

1月31日（火）。場所、名城大学名駅サテライト。今回のWSは愛知県名瀬地区社会科研究会（地歴公民部会）との共催で行った。参加者25名。

まず、篠原代表から「国際経済の教え方」の講義があった。国際経済を教えるのは教員にとって難しいこと。それは、指導要領の問題、教科書の記述の順序性の問題、入試問題の質の問題などが絡み合っているからである。それをときほぐしながら、生徒が国際経済の学習から何を学ぶべきかを教える側は取舍選択する必要があると説明。そのうえで、比較優位の考え方とその現代的な意味を説明された。特に、現代では製造工程の比較優位の組み合わせで分業がなりたっていることを認識することが大事で、リカードやリストで貿易を語ることはもはや不十分であることを強調された。その上で、国際収支の見方、為替レートとの関連などに言及された。また、ブレトンウッズ体制に関する歴史的な記述を、貿易や為替の学習と有機的にリンクさせないと、生徒にがまん暗記を強いることになることも強調された。北京の大学入学問題などや、先生が教えている北京の学生のはなしなどもあり、参加の先生方は興味深く受け止めていた。

ついで、新井から「シミュレーションとロールプレイを活用した体験型授業の試み」という授業提案が行われた。まず、シミュレーションやロールプレイに関する概説がされ、それをうけて、マネーストックと物価、と公共財ゲームの二つの教材が紹介され、先生方が生徒になり実際に参加をしながら、教材の有効性や問題点を考察する形で講義がおこなわれた。



質疑の時間をとることがあまりできなかったため、出席者に感想、意見を書いてもらってそれに変えることとした。

感想では、篠原講義に対しては、「指導要領、教科書の弱点を指摘していただき興味深かった。配列やメッセージ性はとても大切で、振り返ると無意識に配列替えやメッセージへの指向を試みていると思う。指導要領通り、教科書通りではなく、主体的に距離を置くことは重要ですね」とか、「本音を聞くことができ、参考になりました。もう一度構築しなおして、経済に取り組みたいと思います」などの意見が寄せられた。

新井の体験型授業提案には、「 $MV=PT$ 、今日一番の収穫です」「まずは実行してみます」「生徒の生活にリアルに迫ることができるので応用しだいでは、HR活動等にも適用できるような教材でした。ただ、テーマの設定をしっかりと考えないと、生徒の意識に問題を残したまま終わってしまう恐れがあります」などの感想が寄せられた。

はじめての名古屋でのWSであったが、先生方の感想からも充実した研修ができた評価できよう。また、これからの中京地区の研究会との連携を展望することができる良い機会となったと言えよう。

(文責 新井)